

⑥ 先端技術の導入促進、試験・研究開発

プロジェクト あおもり「農業DX」の実現

目 標

- ・スマート農業機械の導入台数※ R4：1,683台 → R10：3,000台
- ※スマート農業機械の発売が始まった平成27年からの累計値

挑戦する内容

- ・本県に適したあおもり「農業DX」の実証
- ・農業デジタル人財の確保・育成
- ・データ駆動型の普及指導体制の構築

関係者の声
＝対話

- ・既存のスマート農業機械は、単一作業を想定しているため効果が限定的（生産者）
- ・機能を簡素化した低価格なスマート農業機械の開発・普及（生産者、市町村）
- ・農業DXを推進するため、指導者のデジタルリテラシーの向上が必要（生産者）
- ・若手の普及指導員は、指導力が不足（生産者）

役割分担

- ・生産者 : 実証ほ設置・運営
- ・産技センター : 各種データの収集・分析
- ・民間企業 : 各種データの分析結果に基づき、より実用的なスマート技術の確立
- ・県 : 確立されたスマート技術・機械等の普及、スマート技術の情報収集・発信

変革後の姿

- ・本県に適した農業DXを実現することで、農作業の効率化に伴う農業所得の向上を図り、人口減少下にあっても本県農業が持続的に発展

令和7年度計画

挑戦する内容

- 1 本県に適したあおもり「農業DX」の実証
 - ・生産者、デジタル技術に精通した民間企業、産技センター等で構成するコンソーシアムに対し、「農業DXを推進し、農作業の効率化や農業利益の最大化」に資する取組を実証委託
- 2 農業デジタル人財の確保・育成
 - ・デジタル技術に係る情報収集・発信
 - ・デジタルリテラシーの向上を図るための各種データの分析・活用に向けた研修会の開催
- 3 データ駆動型の普及指導体制の構築
 - ・各種デジタルツールを活用したデータ駆動型の現地指導手法の実証



フェンロー型ガラス温室におけるトマト栽培



セクションコントロール機能付きバキュームシーダー

対話

- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（7月、1月）
- ・公募で選定したコンソーシアムごとに、定期的に進捗状況や実証現場の意見を把握（8月、12月）
- ・研修会等の際に関係団体と意見交換の場を設定（7月、10月）
- ・現地指導手法の実証の際に意見交換の場を設定（4月～翌年3月）